



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った 協調学習における授業改善のポイント

飯塚市教育委員会

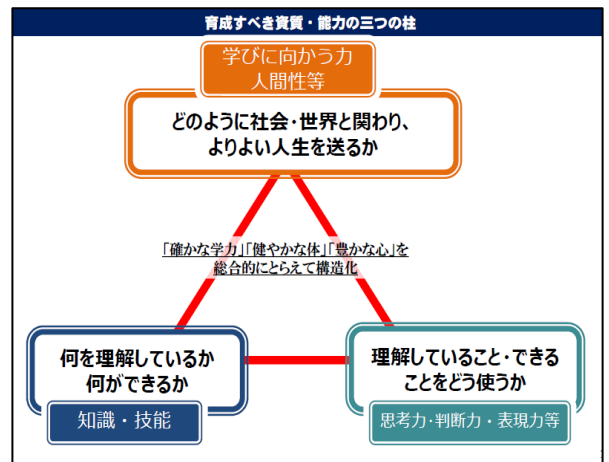
1 キャリア教育の視点から

日常の教科等の学習指導において、**自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりしながら学ぶような機会を設ける**など、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善を通じて、教育課程全体において必要な**資質・能力の育成**を図っていく取組が重要になる。

近年、飯塚市では全国学力・学習状況調査等の各種学力調査の結果においては、**好ましい状況を示し**、テスト等によって測定できる学力については、一定の成果が出てきている。

一方、児童生徒質問紙における調査結果からは、「将来、学習した内容が役立つ」と考える子どもの割合が全国より低く、自己肯定感が低いことなども明らかとなっている。これは、日常の授業の有用性が、子どもに伝わっていないのではないかと考えられる。指導者が「**何のために、この授業があるのか**」を共有し、学校教育に変化する社会の動きを取り込み、世の中の動きと結び付けた教育活動を展開し、子どもに生きていくために必要な資質・能力を確実に身に付けさせなければならない。

そこで、子どもの実態を見つめることから、「**何ができるようになるか**」のために、「**どのように学ぶか**」を一層重視する必要がある。



【中央教育審議会答申 H28.12.21】

2 3つの資質・能力を育む視点から

主体的・対話的で深い学びの実現について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

【主体的な学び】
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【例】
・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
・「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用し自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【例】
・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
・子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【例】
・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
・精査した情報に基づいて自分の考えを形成したり、目的や場面状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

【中央教育審議会答申 H28.12.21】

大切になる。そのためにも、学びの過程において、実生活や実社会と関わるリアリティーのある真正の学びに**主体的に取り組んだり**、異なる多様な他者との**対話を通じて**考えを広めたり**深めたりする学び**を実現することが重要になる。

生きて働く「**知識及び技能**」、未知の状況にも対応できる「**思考力・判断力・表現力等**」、学びを人生や社会において生かそうとする「**学びに向かう力、人間性等**」を一人一人の子どもに育成することが求められている。

単に知識を記憶し再生するだけにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることが実感できるような**学びの深まり**も大

主体的・対話的で深い学びの視点から

先に示した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点から、「知識構成型ジグソー法」の手法を取り入れた**協調学習の在り方**を見直すポイントについて、以下の（１）～（３）にまとめてみた。

（１）「主体的な学び」からのアプローチ

「主体的な学び」の実現に向けて、①**授業の導入**における課題設定の場面 ②**終末**における振り返りの場面からアプローチしたい。

①授業の導入における課題設定の場面

子どもは、実生活や実社会とのつながりのある具体的な活動や体験を行うことによって**意欲的で前向きな姿勢**となる。まずは、日常の授業において子どもの**知的好奇心**を刺激するような**リアリティーのあるクオリティーの高い「学習課題」**や**「問い」**を設定することが主体的な学びには欠かせない。

協調学習の授業をデザインする際の「学習課題」や「問い」については、次のようなものを念頭に置き、**自ら学ぼうとする力**を育むことが必要である。

協調学習における「学習課題」や「問い」

子どもにとって

- ◇解決したくなるもの（知的好奇心を刺激するもの）になっているか。
- ◇解決に**対話が必要なもの**になっているか。
※一人では十分に**答えが出ないもの**になっているか。
- ◇「学習課題」や「問い」に対する活動が**焦点化**されているか。
- ◇**深い学びに向かうもの**になっているか。



②終末における振り返りの場面

授業終末における振り返りは、自らの学びを**意味付けたり、価値づけたり**して自覚し、**他者と共有**していくことにつながる。この振り返りの場面を通して、**学びの成果を実感**させ、学習した確かな手応えを生み出し、**新たな学びに向かう主体的な学び**を具現化していくことにもつながる。

協調学習の授業をデザインする際には、次のような**3つの機能**を意識した振り返り場面を設定することが必要である。

協調学習における振り返りの3つの機能

- ◇**学習内容を再確認する**振り返り。 **【内容価値の実感】**
- ◇学習内容を現在や過去の学習内容と**関係付けたり、一般化**したりする振り返り。 **【方法価値の実感】**
- ◇**自己変容**を自覚する振り返り。 **【自己肯定感・有用感の高揚】**

協調学習における振り返りについては、子どもが解決したい「学習課題」や「問い」に対する自分の考えを、**授業の始まりと終わり**の双方で記入し、その**考えの差**について子どもと授業者で共有し合い実感することが必要である。

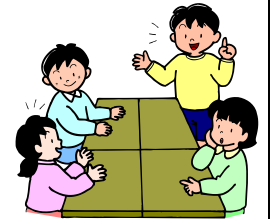
(2) 「対話的な学び」からのアプローチ

「対話的な学び」については、異なる多様な他者との学び合いを重視することが大切になる。こうした学びは、学習のプロセスを質的に高めていくとともに、他者と力を合わせた問題の解決や協働による**新たな知の創造**に結び付くものとして期待される。

授業者にとって「対話的な学び」はイメージしやすいが、「ただのおしゃべりとなっている」「どうすればしっかりと話し合いとなるのか」等、心配や問題が顕在化している。そこで、最初に対話が成立するための**5つの条件**を整備することから始めたい。

対話（話し合い）が成立するための5つの条件

- ①学級に**支持的風土（互いの学びを尊重し合う関係性）**がある。
- ②子ども全員が**解決したい共通の問題（問い）**がある。
- ③子ども一人一人に学習課題に対する**自分の考え**がある。
- ④子どもたちの考えに**差異性**がある。
- ⑤**話し合いのスキル**（話し合い方）が身に付いている。



協調学習の授業をデザインする際には、対話による**建設的相互作用**によって、子どもの学びが豊かになるために、次の3つの事項に配慮したい。

協調学習における対話的な学びに関する配慮事項

- ◇エキスパート活動において、どのような**知識や情報**が獲得できているか。
- ◇エキスパート活動で得た知識や情報をジグソー活動やクロストークで**どのように処理させるか**。【思考するための技法】
- ◇ジグソー活動やクロストークで、どのような**成果物**（思考力）を期待しているか。【思考ツール】

日々の授業において**思考するための技法**の活用は、思考力・判断力・表現力等を育むための**中核**に存在している。協調学習においても**思考するための技法**を繰り返し使うことで、どのような状況や場面でも使いこなせる**汎用性の高いもの**となっていく。

思考するための主な技法は、以下の10に整理することができる。

- ①順序付ける
- ②比較する
- ③分類する
- ④関連付ける
- ⑤多面的に見る・多角的に見る
- ⑥理由付ける
- ⑦見通す
- ⑧具体化する
- ⑨抽象化する
- ⑩構造化する 等

ジグソー活動やクロストークで思考力・判断力・表現力等を育成する方法には、「**思考ツール**」の活用が効果的である。「思考ツール」とは、既存の知識やエキスパート活動で学んだ情報を具体的な形にして書き込むためのシンプルな**図形の枠組み**のことである。

「思考ツール」は子ども一人一人の頭の中にある情報やイメージを外に出すことを促し、**視覚化**することで、「学習課題」や「問い」に対する**個々の捉え方**を他者にも自分自身にも分かりやすく表現できるものである。

授業で活用させたい主な思考ツールは、以下の10に整理することができる。

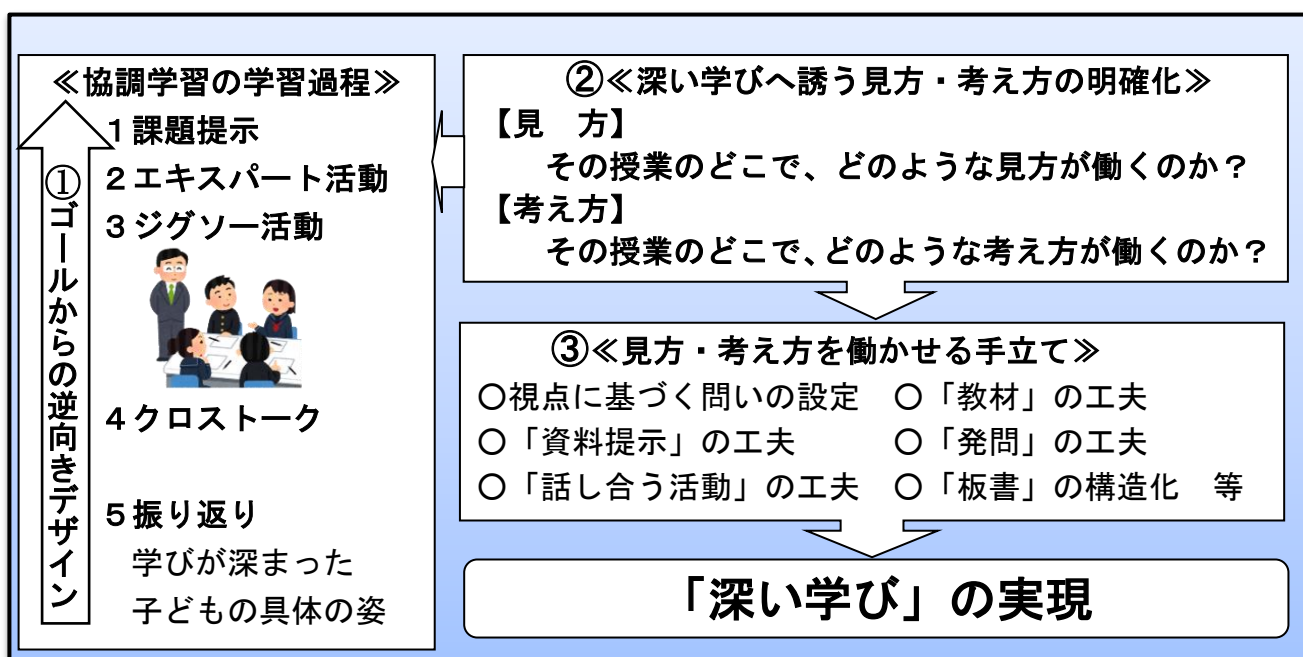
- ①Yチャート
- ②ベン図
- ③ウェビング（イメージ）マップ
- ④クラゲチャート
- ⑤マトリックス
- ⑥座標軸
- ⑦相関図
- ⑧ランキング表
- ⑨フローチャート
- ⑩ピラミッドチャート 等

(3) 「深い学び」からのアプローチ

「深い学び」へと誘う鍵となるのが、各教科の特質に応じた「見方・考え方」である。「深い学び」は、各教科等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的に活用することで、個別の知識や技能等を関連付けて概念化することである。

子どもが「見方・考え方」を自ら働かせて深い学びへと誘うためには、下図の学習過程に留意した指導が必要となる。

- ① 本時で育成する資質・能力（学びが深まった姿）を明確にした上で、教師は何をすればよいのかを検討し、ゴールからの逆向きに協調学習をデザインする。
- ② 働かせる「見方・考え方」を明らかにし、協調学習のどの場面、どの活動で「見方・考え方」を働かせるかを想定して授業を構想する。
- ③ 教科の特質に応じた「見方・考え方」が働き始めるには、教材や発問等を工夫し、教師が手立てを講じる。



協調学習の授業をデザインする際には、子どもの学びが深まるために、次の5つの事項に配慮したい。

協調学習における深い学びに関する配慮事項

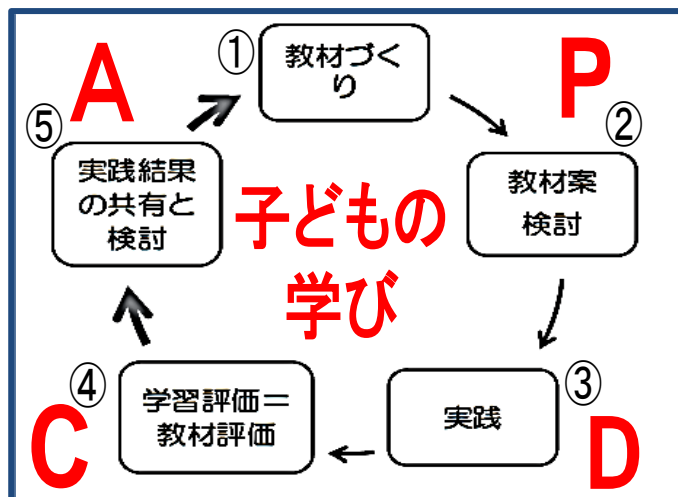
- ◇本時のねらい→子どもの具体の姿でのゴール→解決したい課題→エキスパート資料の順で明確に設定できているか。
 - ◇エキスパートA・B・Cの活動（資料）において、その教科・単元で働かせたい「見方・考え方」が内包されているか。
 - ◇ジグソー活動やクロストークにおいて、どのような「見方・考え方」を働かせて答えにたどり着いたか、論理的に説明・表現する場があるか。
 - ◇クロストークにおいて、多様な解の中から、試行錯誤して最適解・納得解を創り出す場があるか。
 - ◇獲得した「見方・考え方」を用いて、他にどのような課題（新たな課題）を解決できそうか、考えたり体験できたりする場があるか。
- ※「知識構成型ジグソー法」の授業の次の時間を重要視しているか。

学びの評価の視点から

評価を通じて、**協調学習の在り方**を見直すことや、**個に応じた指導の充実**を図ることが重要である。

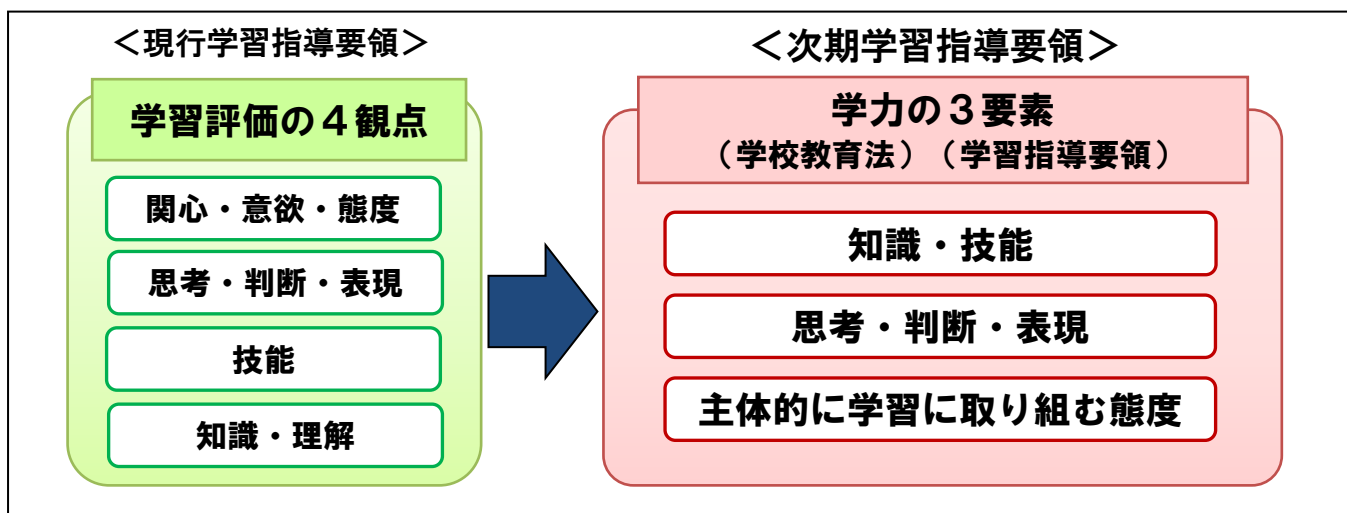
学習指導と学習評価のPDCAサイクルを確立して、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

また、**単元の内容や時間のまとめ**を見通しながら評価の場面や方法を工夫して、**学習の過程や成果**を評価することで、**資質・能力**の育成に生かすことが大切である。



【東京大学CoREF継続的な授業改善のPDCAサイクル】

各教科等の目標が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを受けて、学習評価は下図のように、「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」の三つの観点に整理された。



協調学習の授業をデザインする際には、**子どもたちの学びの評価**について、次の4つの事項に配慮したい。

協調学習における学びの評価に関する配慮事項

- ◇評価の結果から**子どもたちの具体的な学習改善**につながるものにしていくこと。
- ◇教師と子どもが**評価の方針を共有**し、**教師の指導改善**につながるものにしていくこと。
- ◇主体的に学習に取り組む態度については、**粘り強い取組**の中で、**自らの学習を調整しようとしている**かどうかを含めて評価すること。
 - ※ 挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、**性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面**を捉えた評価にならないこと。
- ◇評価内容や方法について**必要性・妥当性**が認められないものを見直していくこと。

特に、「**振り返りシート**」のフォーマット（東京大学CoREF）等を活用し、**協調学習**を通して**どのような学びが起きたか**を確認し、**授業を見直す**ことが必要である。

協調学習における指導用ルーブリック

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの協調学習における授業改善を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を指導用ルーブリックとして示した。

1 目指すべき目標・評価規準の設定ができたか	
目標	<input type="checkbox"/> 3つの資質・能力に基づき「何ができるようになるのか」を明確にして目標を設定することができたか。 <input type="checkbox"/> 目標が達成できているかを評価できる評価規準が「子どもの具体の姿」で設定できたか。
2 子どもが自分の考えを表現することができていたか	
主体的な学びの視点	<input type="checkbox"/> 子どもの学習意欲を喚起する「学習課題」や「問い」を持つための教材の工夫、発問の工夫、問題提示の工夫を行ったか。 <input type="checkbox"/> 本時の課題を正確に伝え、問題解決への見通しをもたせることができたか。 <input type="checkbox"/> 評価規準（子どもの具体の姿）に基づき、本時の子どもたちの変容を評価し、次の学習へとつなげることができたか。 <input type="checkbox"/> 子どもたちが本時の学習を振り返ることができるような場面を設定し、新たな課題（連続する問い）を設定することができたか。
3 子どもが友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか	
対話的な学びの視点	<input type="checkbox"/> 自分の考えを表現することができるように、支援方法（思考するための技法・思考ツール）を準備し、実行することができたか。 <input type="checkbox"/> ジグソー活動やクロストークにおいて、思考の可視化により多様な考えを比較・関連付けする場の設定ができていたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定、資料やワークシート等の準備ができたか。 <input type="checkbox"/> 子どもたちの考えを広げ深められるように、エキスパート班、ジグソー班をグルーピングできていたか。
4 子どもが教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせていたか	
深い学びの視点	<input type="checkbox"/> 子どもたちが本時に働かせる「見方・考え方」は、明確であったか。 <input type="checkbox"/> 子どもたちに「見方・考え方」を働かせることができるような、エキスパート活動、ジグソー活動、クロストークを設定することができたか。 <input type="checkbox"/> クロストークにおいて、思考をゆさぶり、学びの過程を再考する場の設定ができていたか。 <input type="checkbox"/> クロストーク後に、自分の言葉（表現）でまとめる時間の保障ができたか。
5 子どもが学びの成果や課題を実感していたか	
評価	<input type="checkbox"/> 評価計画、評価規準に基づき、子どもの変容を評価することができたか。 <input type="checkbox"/> 評価するための方法や場面を設定することができたか。 <input type="checkbox"/> 子どもたちが本時の学習を振り返ることができるような場面を設定できたか。

協調学習における「主体的・対話的で深い学び」の授業評価

いつでも、どこでも、誰でも、簡易に授業評価することができるよう、協調学習が、「主体的・対話的で深い学び」がどの程度実現したかをチェックできるルーブリックを示した。

※ 各項目ともD (fair) → A (excellent) に向かって授業評価を行ってください。

項目	A (excellent)	B (good)	C (average)	D (fair)
1 解決したい課題や問い	<input type="checkbox"/> 思わず解きたくなる課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話に繋がった。 <input type="checkbox"/> 「知りたいな」「なぜだろう」等の対話がある。	<input type="checkbox"/> 思わず解きたくなる課題や問いがあり、解決に対話を必要とした。	<input type="checkbox"/> 思わず解きたくなる課題や問いはあるが、解決に対話を必要としなかった。	<input type="checkbox"/> 課題や問いが明確ではなかった。
2 考えるための材料 ※材料とは資料、道具、教材など教師が事前に準備しておくもの	<input type="checkbox"/> 複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらを比較、統合することで、深い学び（よりよい答え）に繋がった。 <input type="checkbox"/> 深い学びのための支援の工夫があった。 <input type="checkbox"/> 「比べてみよう」「あれを使って解けるかな」等に対話がある。	<input type="checkbox"/> 複数の視点や立場から考えるための材料があったが、教師が一つの考え（答え）にしてしまった。	<input type="checkbox"/> 考えるための材料はあるが、課題や問いに対する解決のヒントが答えに直結してしまった。 <input type="checkbox"/> 解決策を、教師が説明してしまった。	<input type="checkbox"/> 考えるための材料が不十分であった。
3 対話と思考 ※対話とは、課題や問いに沿って考えが広がったり深まったりする言葉のやりとりのこと	<input type="checkbox"/> 対話を通して考える時間が適切に確保され、他の人の言葉や活動を見たり聞いたりしながら解決策や答えを深めていくような建設的なやりとり（建設的な相互作用）がなされていた。 <input type="checkbox"/> 「こういうことだよね」「わからない」「どうして」等の対話がある。	<input type="checkbox"/> 対話を通して考える時間が適切に確保されたが、教師の過度な助言により、対話や思考が抑制された。	<input type="checkbox"/> 対話を通して考える時間が保障されているが、各自がまとめを紹介するだけであった。	<input type="checkbox"/> 対話を通して考える時間がなかった。
4 学習の成果	<input type="checkbox"/> 学んできたことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できた。 <input type="checkbox"/> 新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びに繋がった。 <input type="checkbox"/> 「もっと知りたい」等の対話がある。	<input type="checkbox"/> 学んできたことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できた。	<input type="checkbox"/> 知識・技能の習得にとどまった。	<input type="checkbox"/> 友達の答えに満足したり、教師のまとめに満足したりしていた。

教科等	各教科等の特質に応じた「見方・考え方」
小中 国語	対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること
小 社会	社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること
中 社会	(地理的分野) 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること
	(歴史的分野) 社会的事象を、時期、推移などに着眼して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること
	(公民的分野) 社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること
小 算数	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着眼して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること
中 数学	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着眼して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること
小 理科	自然の事物・現象を、量的・関係的、質的・実体的、多様性と共通性、時間的・空間的などの科学的な視点で捉え、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えること
中 理科	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
小 生活	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事
小 音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること
中 音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること

教科等	各教科等の特質に応じた「見方・考え方」
小 図工	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと
中 美術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと
小中 体育	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること
小中 保健	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること
小 家庭	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
中 技術・家庭 (家庭分野)	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
中 技術・家庭 (技術分野)	生活や社会における事象を、技術との関わり方の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること
小 外国語活動 外国語 中 外国語	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること
小中 道徳	様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで、(広い視野から)多面的、多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること ※ () 内は中学校のみ
小中 特別活動	各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること
小中 総合的な 学習の時間	各教科等における見方・考え方を総合的に働かせるということ 特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えること